令和８年度　第３回　静岡市上下水道事業経営協議会　会議録

１　日時　　令和８年 10 月 16 日（金）　14：00～16：00

２　場所　　静岡市上下水道局庁舎　７階 71 会議室

３　出席者

（１）委員（敬称略）10 人出席／11 人全体

鈴木会長、小泉副会長、狩野委員、大石委員、中井委員、濱田委員、橋本委員、
原田委員、堀田委員、横山委員
（欠席）竹内委員

（２）上下水道局職員

石野上下水道局長、小林上下水道局次長、
石原水道部長、石上下水道部長、
川口参与兼上下水道総務課長、秋山参与兼上下水道経営企画課長、大竹上下水道経理課長、
水島お客様サービス課長、
瀧戸参与兼水道計画課長、山下水道建設・維持課長、角谷参与兼水道施設課長、
今泉中山間地水道課長、浅井参与兼水質管理課長、鎌田水道事務所長、本多水道維持担当課長、
新庄清水水道施設担当課長、
稲葉参与兼下水道計画課長、梅本下水道建設課長、山上下水道維持課長、山本下水道施設課長、
杉山下水道事務所長、河野葵・駿河浄化センター担当課長、風岡清水浄化センター担当課長
※代理出席の所属もあり

（３）協議会事務局職員

秋山参与兼上下水道経営企画課長　外５名

４　傍聴者　　報道１社、市民１名

５　内容

（１）　開会

（２）　議題

①　令和７年度事務事業及び施策（令和５～７年度）の自己評価に対する外部意見等のまとめ

事務局から説明

資料１：第５次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価（令和７年度）

質問なし

② 上下水道事業経営戦略の改定について（概要）

上下水道経営企画課から説明

資料２：上下水道事業経営戦略の改定（概要）

【小泉副会長】

・資料２Ｐ３の有収率とは、算出式の分子分母である年間総有収水量と年間総配水量とで差が生じる主な要因は何か。

→【水道計画課】

・主に漏水であると考えている。その他浄水処理の過程で発生するドレン水などの事業用水量がある。

【小泉副会長】

・資料２Ｐ９の水洗化率が、他政令市と比べて低い理由は何か。基本的な条件などに違いがあるのか。

→【下水道計画課】

・静岡市では、合併処理浄化槽が設置された住宅地に、後から下水道を整備した地区がある。このような地区で下水道への切替えが進んでいないことが、水洗化率が他の政令市と比べて低い要因の一つとなっている。

【狩野委員】

・資料２Ｐ９の水洗化率について、静岡市の環境局所管分との違いはなにか、この資料の水洗化率は下水道事業所管分に関する水洗化率という理解でよいか。

→【下水道計画課】

・市街地周辺の合併処理浄化槽の所管が環境局、山間部の農業集落排水の所管が経済局となっている。資料２の数値は下水道事業所管の公共下水道に係る数値である。

【鈴木会長】

・静岡市の公共下水道の普及率はどのくらいか。

→【下水道建設課】

・資料５P54 の上段に記載のとおり、公共下水道普及率の 2026 年度見込みは 89%程度である。また、農業集落排水と合併処理浄化槽の利用人口も含めた場合は、2025 年度末時点実績として 95.4%である。

【原田委員】

・資料２P４右下に記載の図３の補填財源残高について、具体的な残高目標はあるか。
→【上下水道経理課】
・何億円以上というような目標設定ではなく、計画期間中に補填財源が枯渇せず事業運営に支障が生じないことを目標としている。

【大石委員】
・資料２P２右上に計画の体系図があるが、最下段の資料５中期経営計画には人材育成やお客様サービス向上に関する個票があるにも関わらず、中段の経営戦略の資料５にはそれに関する記載がないため、関連性をもたせるよう工夫をしてほしい。
・資料２P８の人件費の見込み方が過去 10 年間の給与改定率の平均とあるが、前半５年と後半５年で動きが違うため、考慮したほうがいい。
→【鈴木会長】
・意見を参考に今後進めてほしい。
→【事務局】
・承知した。

【鈴木会長】
・意見として、企業債残高について、資料３のレーダーチャートでは、有収率と比べて他政令市との差が大きくないように見えるが、これは他政令市も同様に厳しい状況にあるためと考えられる。静岡市においては、企業債残高に十分配慮した財政計画を積極的に策定してほしい。

③　第６次中期経営計画の策定について（素案提示）

事務局と各事務事業責任課から説明
資料３：第６次中期経営計画の体系について
資料４：事務事業個票の記載例
資料５：第６次中期経営計画（案）

【狩野委員】
・資料５P29 に浸水被害軽減対策とあるが、静岡市内で冠水の可能性があるアンダーパスはどれくらいあるのか。アンダーパスの排水についての所管はどこか。
→【事務局】建設局に確認後、回答する。
→【下水道建設課】アンダーパスの雨水の排水は道路管理者である建設局の所管となる。

【鈴木会長】
・静岡市は、以前、雨量想定を１時間雨量 67㎜としていたが、現在の雨量想定はどれくらいか。

→【下水道計画課】
・現在も１時間雨量 67㎜を想定している。
【鈴木会長】
・昨今の状況を見ると、見直すような議論はないのか。
→【下水道計画課】
・国の議論の進捗に準じて静岡市においても検討していく。

【小泉副会長】
・資料５P45 の活動目標に民間活力の導入とあるが、急に包括的な民間委託が可能なのか。
→【水道施設課】
・水道事業全体に対する民間委託ではなく、施設の運転管理業務に対する民間活力の導入である。静岡市では、現在、仕様書発注により浄水場などの施設において運転管理業務の一部を民間委託している。今後は、これに加え、薬品投入など、委託する業務の範囲を現行よりも拡大することを検討している。
・包括的という言葉について誤解を与えないよう記載方法を検討する。

【小泉副会長】
・静岡市の水道水がおいしいとされるが、水源に恵まれているなどの理由があるのか。
→【水質管理課】
・静岡市は、安倍川水系の原水や駿河区の地下水などが水源となっている。静岡市では可能な限り残留塩素濃度を低くできるよう努めている。

【大石委員】
・水道管と下水道管で老朽化対策の方法が違うのか。
→【水道建設・維持課】
・水道管は布設替えにより更新を実施する。
→【下水道維持課】
・下水道管は管口径が大きいことから管更生という手法を主としている。加えて、水道管と同様の布設替えも現場条件によって採用している。

【大石委員】
・資料５P59 の行政手続のオンライン化とあるが、お客様サービスの向上という政策でありながら、この事務事業による受益者は工事業者ではないか。
→【上下水道経営企画課】
・水道料金下水道使用料の支払いや口座振替手続きなど使用者が直接行う手続きは、既にオンライン化済みである。給水装置工事や排水設備工事に関する手続については、オンライン化による手続の迅速化を通じて、工事の発注者である市民にも恩恵があると考えている。

【狩野委員】

・資料５P37 の水道管の老朽化対策の実施で、AI 解析結果に基づく漏水調査延長が４年間で毎年 683km となっているがどのような理由か。

→【水道建設・維持課】

・2026 年度に AI 解析を実施しているが、2028 年度と 2030 年度にも実施予定であり、その解析結果によって漏水調査延長は変更していく予定である

④　令和７年度決算の報告について

上下水道経理課から説明

資料６：令和７年度決算の報告について

【小泉副会長】

・P５右下に令和５年度に平成 25 年度借入分を一括償還したとあるが、どういう理由か。

→【上下水道経理課】

・借入期間は 30 年であるが、借入方法の一つに 10 年ごとに借換えを行うものがある。このため、借入から 10 年目に未償還残高を一括償還し、改めて借換えを行っている。

【鈴木会長】

・企業債の予算と決算の差が繰越とのことだが、これは令和７年度に限ったことか。事業が進んでいないように見える。また、工事の繰越に伴う企業債の繰越は次年度に企業債残高に足されることとなるのか。

→【上下水道経理課】

・建設改良費の繰越は、毎年度一定程度発生しており、企業債は建設改良費繰越に伴い財源として繰り越している。令和７年度は、国の経済対策に伴い、令和８年度に開始予定であった工事について、令和７年度に前倒しして発注できるよう補正予算を組んだことで、令和７年度末の発注が増加し、例年よりも繰越額が多くなった。その結果、現計予算と決算の差が例年よりも大きくなっている。

・今後も、国の経済対策などにより工事を前倒しする場合には、建設改良費の繰越が増加し、現計予算と決算の差が大きくなる可能性がある。

・令和８年度に繰り越した工事の財源となる企業債は令和８年度に工事の実施に合わせて借入し、企業債残高に反映される。

⑤　報告事項　熊本地震被災地支援について

上下水道経営企画課から説明

資料７：熊本地震被災地支援について

質問なし

〈連絡事項（事務局）〉

・資料９、10、11 は、令和８年 11 月６日（金）までに事務局あて提出いただきたい。
（各項目への記入は任意、提出は必須）

確認
静岡市上下水道事業経営協議会会長

（署名）　鈴木　　学